

SAMPLE



フェアな価格 確かな信頼

バイオマス Biomass

お申し込み >

試読 >

☆RIM BIOMASS INTELLIGENCE WEEKLY

★No. 200 Feb 29 2024

Copyright (C) 2024 Rim Intelligence Co. All rights reserved.

—TOKYO, 10:00 JST Feb 29 2024<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

◎お知らせ

○季刊誌『エネルギー通信』第19号発売のお知らせ

リム情報開発は2月20日、エネルギーの「いま」をまとめて把握できる季刊誌『エネルギー通信』第19号を発行しました。今号ではJR東海の水素動力車両に関する特集記事や、脱炭素化に向けて先進的な取り組みを見せるテスHDとシナネンへのインタビュー記事を掲載。化石燃料のデータ集や分析記事に加えて、インドと米国のアンモニア事情など国際的なトピックスも取り上げており、業界の全体像を把握できること請け合いです。『エネルギー通信』第19号で、最新の動向をぜひご確認ください。

『エネルギー通信』は、WEBで閲覧いただくことができます。

お申込み・お問い合わせはこちら

URL: <https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/eneletter/>

エネルギー通信チーム TEL: 03-3552-2411 / Email: info@rim-intelligence.co.jp

○リム創業40周年記念本『エネルギーの歩み』発売のお知らせ

リム情報開発株式会社は2024年2月、創業40周年を記念し、『エネルギーの歩み』を刊行いたします。石油メジャーの誕生から脱炭素化に至るまで、エネルギーの歴史をわかりやすくひも解くとともに、リムならではの市況解説もふまえた充実の一冊です。原油、石油製品、LNG、LPGの貿易統計に加え、年表も資料として掲載しており、業務や勉強に幅広く利用していただけます。この機会にぜひお申し込みください。

定価: 33,000円(税込) ※送料が別途かかります。

お申し込みは以下のリンクから(サンプルあり)。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/40book/>

リムレポートのご紹介

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス(週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
クリーンエネルギー(週刊)	CROSS VIEW 軽油/重油	エネルギー通信

上記に関するお問い合わせは、TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp



◎Wood Pellets(木質ペレット \$/mt)		
OFOB Southeast Asia Spot Prices for South Korea		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Mar)	100.00-110.00	15,150-16,665
FOB spot prices (Apr)	100.00-110.00	15,150-16,665
FOB spot prices (May)	100.00-110.00	15,150-16,665
OFOB Southeast Asia Spot Prices for Japan		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Mar)	120.00-130.00	18,180-19,695
FOB spot prices (Apr)	120.00-130.00	18,180-19,695
FOB spot prices (May)	120.00-130.00	18,180-19,695
OFOB North America(including southwest Canada) Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Mar)	165.00-175.00	24,998-26,513
FOB spot prices (Apr)	165.00-175.00	24,998-26,513
FOB spot prices (May)	165.00-175.00	24,998-26,513
OCFR Japan Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Mar)	155.00-165.00	23,483-24,998
CFR Japan spot prices (Apr)	155.00-165.00	23,483-24,998
CFR Japan spot prices (May)	155.00-165.00	23,483-24,998
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	24.00-26.00	
North America to North Asia	35.00-38.00	
TTS=151.50(2月28日、三菱UFJ銀行)		

◎PKS (パーム椰子殻 \$/mt)		
OFOB Indonesia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Mar)	125.00-130.00	18,938-19,695
FOB spot prices (Apr)	125.00-130.00	18,938-19,695
FOB spot prices (May)	125.00-130.00	18,938-19,695
OFOB Malaysia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Mar)	120.00-125.00	18,180-18,938
FOB spot prices (Apr)	120.00-125.00	18,180-18,938
FOB spot prices (May)	120.00-125.00	18,180-18,938
OCFR Japan Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Mar)	150.00-155.00 -5	22,725-23,483
CFR Japan spot prices (Apr)	150.00-155.00 -5	22,725-23,483
CFR Japan spot prices (May)	150.00-155.00 -5	22,725-23,483
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	-2 25.00-29.00 -2	
TTS=151.50(2月28日、三菱UFJ銀行)		

◎木質チップ国内市場 (一般材、未利用材 Yen/mt)		
OJapan Domestic price (in Yen/mt)		
	Yen/mt	
一般材	7,500- 9,500	
未利用材	10,000-11,000	
(注記) 価格評価の対象は水分50%前後		

◎木質ペレット

○概況

東南アジア積みの韓国向け、日本向け、日本着は、いずれも前週からもち合った。日本国内の複数のバイオマス発電所がトラブルや火災の影響で稼働を停止しており、スポット需要は伸び悩んでいる。フレートも東南アジアと日本間、北米と日本間のいずれも前週から変わらず。

○FOB 東南アジア

東南アジア積み木質ペレットは、韓国向け3~5月積みはいずれも100.00~110.00ドルと、前週からもち合った。

引き続き韓国向けのスポット玉の調達に関心を示すプレーヤーは見当たらない。市場関係者によると、例年より気温の高い日が多く、電力需要も低迷しているようだ。発電事業者が入札を通じて買い付ける石炭の量も限られており、「混焼用の木質ペレットをスポット市場で物色するトレーダーは皆無」(市場関係者)との声が聞かれた。

日本向け3~5月積みはいずれも120.00~130.00ドルと、前週から変わらず。

日本向けカーゴの商談水準は125ドル程度という。ただ、日本国内の発電所でトラブルが続いたり、暖冬による電力需要の低迷などを背景に、実際のスポット取引は限られている。

市場関係者によると、一部のベトナムのサプラ

イヤーが135~140ドルで売り唱えているという。ただ、買い手には割高に映っており、成約には至っていない。サプライヤー側もターム品の供給を優先しているためスポット販売には消極的で、唱えを切り下げる意向はないようだ。

昨年末にFSC認証の資格を回復したベトナムのアンベトファットエナジー(AVP)社は、日本商社に対して販売打診を続けているようだ。もっとも商社や需要家の間では、「市場に余剰玉が溢れているなかで、一度、認証をブロックされた業者の玉を積極的に取る必要はない」(市場関係者)との声も聞かれる。

一部の市場関係者は、パーム椰子の木を原料としたペレット(OPTペレット)の動向に注目している。発電燃料用のほか、持続可能な航空燃料(SAF)の原料としても使用できる可能性があり、研究が進んでいる。ただし、実用化のめどは立っておらず、流通量も極めて少ないのが現状のようだ。

○FOB 北米

北米積み木質ペレット相場は3~5月積みがいずれも165.00~175.00ドルと、前週と同水準で推移した。

新規のスポット商談が見られないなか、引き続き市場関係者の関心は、債務の支払いが滞っている北米サプライヤー1社の動向に集まっている。このサプライヤーは債務の支払いを延期しており、

取引のあるトレーダーや需要家の間に不安が高まっている。「既にこのサプライヤーとの取引を中止した業者もいるようだ」(市場関係者)との声が聞かれる一方、ターム玉の供給は予定どおりに行われているとの情報もある。このため代替として東南アジア品の物色に二の足を踏むプレーヤーも見受けられた。

OCFR 日本

日本着の木質ペレット相場は3~5月着が155.00~165.00ドルと前週からもち合い。

火災に伴う既存発電所の稼働停止や、新規発電所の運転開始の遅れに伴い、日本の木質ペレット需要は低迷している。余剰玉は合計で十数万トンにも上るとの情報が伝えられた。日本に到着したものの、荷揚げできずに浮いたままとなっているカーゴも複数あるもよう。

新規発電所では、御前崎港バイオマス発電所(出力75MW)の立ち上げは7月まで先送りされたようだ。既報のとおり、市原八幡埠頭バイオマス発電所(出力75MW)の運転開始も予定より遅れている。

発電事業者の業界団体がこのほど会合を開いた。複数の市場関係者によると、2023年に発生した木質ペレットに起因する火災事故の原因についての検証結果が、発電事業者より報告された。

粉塵爆発が起きた中国地方のバイオマス発電所の事業者は、複雑で手間のかかる燃料受け入れ設備の清掃頻度を減らしたことが事故につながったと説明したようだ。設備の改造などを対策として挙げたという。

一方、燃料のサイロ内で木質ペレットが発火する事故が起きた関東地方のバイオマス発電所では、半年もの長期に渡り在庫を貯蔵していたことで、木質ペレットが自然発火したようだ。運営する発電事業者は、在庫の貯蔵期間を3カ月に短縮するほか、それ以上保管する場合は一度サイロから木質ペレットを取り出し冷却するなどの対策を講じるとしたという。また、サイロ内の温度チェックをこまめに行い、温度の上昇が確認された場合には速やかに窒素を注入するなどして火災事故を未然に防ぐようだ。

木質ペレットの第三者認証関連では、2025年度末までの取得が求められているライフサイクルGHGが確認できる認証スキームについて、SBP(Sustainable Biomass Program)が現在認められている。

ただし、足元で積極的にSBP認証の取得に動く商社は見受けられない。SBP認証の場合、FSC(Forest Stewardship Council)認証などですでに確認済みの合法性(持続可能性)の部分についても別途取得が必要になるのか、燃料の最終需要家である発電所まで取得が必要になるのかなど未確定の部分が少ないという。当局の方針が明確に定まるまで認証取得に動きづらい面があるようだ。

Oフレート

ベトナムと日本間のフレートは24.00~26.00ドルと前週からもち合い。スポット玉を物色する動きが見られず、傭船需要も盛り上がりを欠く。

商談水準について、引き続き市場関係者からは25ドル程度との見方が聞かれる。日本周辺では複数の2万~3万トンのハンディサイズ、1万トン程度の近海船などが、荷揚げできずにいるようだ。

北米と日本間のフレートは35.00~38.00ドルと、前週から横ばい。スポット玉の取引が限られており、新規に船舶のチャーターに動くプレーヤーは見当たらなかった。

◎PKS

○概況

インドネシア、マレーシア積みとも相場は前週から変わらず。日本のバイオマス発電所による買い気が薄く、商談は盛り上がりを欠いている。両国ともターム供給契約を持たないサプライヤーがスポット市場で買い手を物色していると伝えられた。日本着とフレートは需要の弱さから相場が切り下がった。

○FOB 東南アジア

インドネシア積みPKSは3~5月積みが125.00~130.00ドルと前週からもち合い。

インドネシア積みの売唱えは130ドルと変わらず。複数の売り手に販売余地があるが、雨季に伴うアブラヤシの低収穫期に伴い、現地のサプライヤーは強気姿勢を崩していない。需要の弱さから徐々に売唱えは下がっているものの、一部のサプライヤーが130ドルで販売打診している程度。雨季が明け、パーム油の搾油工場(ミル)出しの供給が増えなければ、相場は下がらないと市場関係者はみている。

一方、日本のバイオマス発電所による買い気が弱く、商談は薄いようだ。日本の商社や発電事業者の多くは4~5月着の供給を確保済みだという。さらに、現行のスポット相場では採算が合わないと判断し、稼働率を引き下げ、燃料の調達量を減らす発電所もみられるもよう。

これまで日本の発電事業者が実施した買い付け入札のなかには、インドネシア積みFOBベース110ドル台で成約された例があった様子。一部の発電事業者は買いアイデアをこれと同水準で寄せている。ただ、110ドル台で販売可能な売り手は現在スポット市場で見当たらない。

マレーシア積みPKSは3~5月積みがいずれも120.00~125.00ドルと前週から変わらない。

マレーシア積みの売唱えは125ドル前後で聞かれており、商談は120ドル台前半で展開されると市場関係者はみている。マレーシアでもスポット販売可能な売り手が散見されるが、積極的な買い手は現れず。ジョホール州のサプライヤー1社は1月末まで複数の買い手から購入打診を受けていたものの、足元では新規の引き合いがないという。日本の商社1社は4月積み以降スポット販売余地があり、買い手を探している。

2024年度のターム商談では、日本の発電事業者の多くは商談を終えており、需要を満たしたと市場関係者はみている。一方、インドネシア、マレーシア積みとも、第三者認証の取得が完了してなかったことから商談入り出来ず、ターム供給契約を抱えていないサプライヤーがいるもよう。これらのサプライヤーは4~9月積み分といったまとまった数量での販売打診を進めていると伝えられた。日本の商社1社はサプライヤーから販売打診を受けたものの、供給先が確保出来ない可能性があることから、商談入りを控えたようだ。

OCFR 日本

日本着のPKS相場は3~5月着が150.00~155.00ドルと前週から2.50ドル安となった。発電所からの買い気が後退していることを受けた。

5月着に対する引き合いが見られる。一部の発電事業者は日本着ベース150ドル以下でなければ購入できないと伝えている。一方、商社1社は売

りアイデアを提示する場合、最低でも155~160ドルになるとしている。

全体的に需要が弱く、2024年はスポットの取引が少なくなりそうだとの声も聞かれる。足元の相場での買い付けが難しいことから、稼働率を引き下げて運転する方針の発電所も多いとの指摘がある。

○フレート

インドネシアと日本間、マレーシアと日本間のフレートは25.00~29.00ドルと前週から2.00ドル安。傭船需要の弱さを受けた。

商談水準はマレーシア積みで27~28ドル、インドネシア積みは30ドル弱で聞かれた。スポッ

ト傭船に積極的な船社も見えており、これらの船社は25ドル前後での商談に応じる可能性がある様子。日本のバイオマス発電事業者によるPKSへの買い気の弱さは、傭船需要の減少にも繋がっているようだ。

◎国内市場

○市況(2月29日時点)

未利用材チップは10,000~11,000円、一般材チップは7,500~9,500円と前週から張り付いた。

○トピックス

【全国】

木質ペレットに起因するバイオマス発電所の相次ぐ火災事故の煽りを、国内材専焼の小規模バイオマス発電所も受けているようだ。昨今の相次ぐ火災事故が「バイオマス」を原因とするものとして一括りにされ、保険料の値上がりにつながっている。これが発電事業の運営コストを押し上げているという。この数年の燃料価格の高騰で固定価格買取(FIT)制度の下で事業採算が悪化するなか、発電事業者にさらに追い打ちをかけている格好だ。複数の市場関係者によると、国内材を主燃料とするバイオマス発電事業からの撤退を検討する動きも見えている。

【北陸】

富山県では未利用材原木の価格がじり高傾向となっている。従来5,000円台だったチップ工場着価格が足元は6,000円付近まで切り上がっている

ようだ。供給の減少が背景にある。最近では住宅着工の低迷で製材向けなどの原木需要が減少。製材向けの原木市況も軟化しており、林業事業者の伐採活動が縮小している。2021~22年に起きた木材高騰「ウッドショック」の記憶が新しいことも伐採活動のブレーキ要因。現在の製材向け原木市況は当時に比べ安く、林業事業者の伐採意欲を削いでいる。伐採が減れば、その分未利用材の供給も絞られることになる。

未利用材原木価格が上昇傾向とはいえ、上昇ペースは総じて緩やか。バイオマス発電所が燃料コスト上昇を懸念しているためだ。他県では7,000~8,000円台、一部では9,000円台といった取引も始まっており、北陸でもこれらの価格を目指す売り手がいるようだが、富山についてみれば浸透は限定的となっている。富山では未利用材価格の

上げ足が鈍いがゆえ、林業事業者の供給意欲が高まりにくい側面もあるという。

能登半島地震による富山の未利用材需給への影響はまだ判然としない。被災地の石川県で産出する未利用材の一部は、従来富山向けに供給されてきた。石川では震災で損傷した山林に続く道の回復が進んでおらず、林業の被災状況の全容把握が追いついていない。ただ、仮に林業活動の復旧が長期化すれば、富山の供給の引き締め要因となる可能性がある。また富山では震災の影響で高岡市のバイオマス発電所が現在に至るまで稼働を停止。これに伴う県内の原木市場への影響は出ていない。この発電所は従来、輸入バイオマス燃料を使っていたためだ。このほか震災を巡っては、災害被災木の活用が今後ひとつの焦点となる可能性がある。いまのところ燃料向けとしての活用は望み薄との見方がある。災害被災木は一般的に出自の証明が難しく、発電所が好む未利用材として使用できないケースが多いからだ。

富山県の林業事業者の間では、4月以降トラックドライバーの時間外労働が規制される「2024年問題」に先立ち、すでに原木の運賃見直しの動きが出始めている。一例としてこれまでのようなトラック事業者との固定運賃の取引を止め、運賃に対しトラック燃料の軽油価格変動を柔軟に反映できる変動運賃を採用する動きがある。具体的には国土交通省がトラック事業者の採算性向上を目指し公表したトラックの「標準的な運賃」に燃料油サーチャージを加味することで運賃を確定しているという。固定運賃では昨今の軽油価格の高止まりを運賃に転嫁しにくい課題があった。林業事業者にとり、原木配送手段の確保は重要課題だ。トラック事業者はドライバー雇用も含めたコストアップに喘いでおり、一部の林業事業者はこのような局面だからこそ「関係者が助け合う必要がある」との理解を示す。

(註) 国内市場の項目では、動きのある地域の話題を随時掲載して参ります。

◎マーケット・ニュース

○DMG森精機=バイオマス発電ガス化炉が2,000時間の連続運転達成

DMG森精機は27日、伊賀事業所(三重県伊賀市)に設置した木質バイオマス発電設備のガス化炉がメンテナンスフリーで2,000時間の連続運転を達成したと発表した。ガス化炉は安定稼働のため一般的に約500時間ごとのメンテナンスが必要とされるが、同社は燃料に使う木質チップの改良、チップ微粉の除去装置の追加などを行いこのほど2,000時間の連続運転を達成。従来65%だった年間稼働率を80%以上まで高めることに成功した。

○テスHD=熊本のバイオマス発電所で竣工式、間伐材などを燃料に

テスホールディングス(HD)は27日、26日に「錦町2MW木質バイオマス発電所」(熊本県錦町、出力約2,000kW)の竣工式を行ったと発表した。同発電所は式に先立つ2023年9月30日から商業運転を開始済み。間伐材など未利用材由来の木質チップを燃料とし、傘下の熊本錦グリーンパワーが運営している。

◎統計

○日本の国別・地域別木質ペレット輸入量、輸入単価24年1月

440131000 木質ペレット

2024年1月 為替レート144.03

国別・地域別	24年1月			23年12月	23年1月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)
ベトナム	242,256	26,565	184.44	210,710	292,935
米国	120,877	30,853	214.21	150,059	0
カナダ	76,208	32,984	229.01	168,259	125,386
インドネシア	35,516	30,350	210.72	409	516
マレーシア	24,162	26,963	187.20	11,204	36,202
タイ	14,135	31,661	219.82	0	647
中国	64	74,547	517.58	51	170
カンボジア	26	38,923	270.24	0	0
ニュージーランド	0	0	0.00	11	26
リトアニア	0	0	0.00	4	0
合計	513,244	28,956	201.04	540,707	455,882

(出所)財務省貿易統計

○日本の国別・地域別PKS輸入量、輸入単価24年1月

230660000 パーム油かす及びパーム核油かす

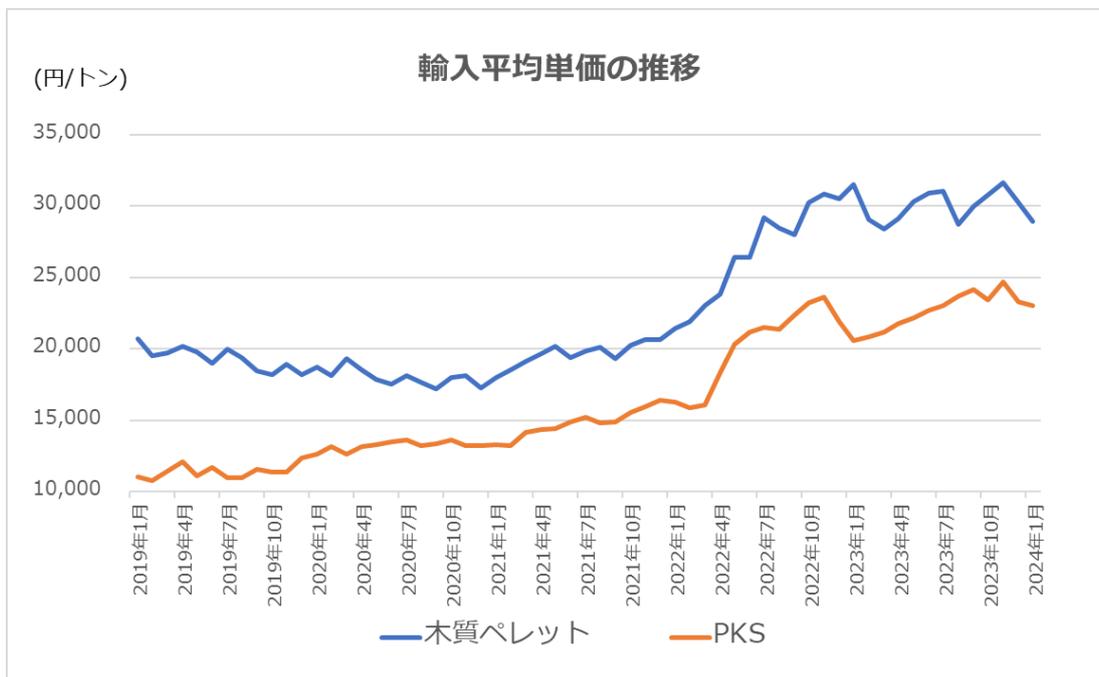
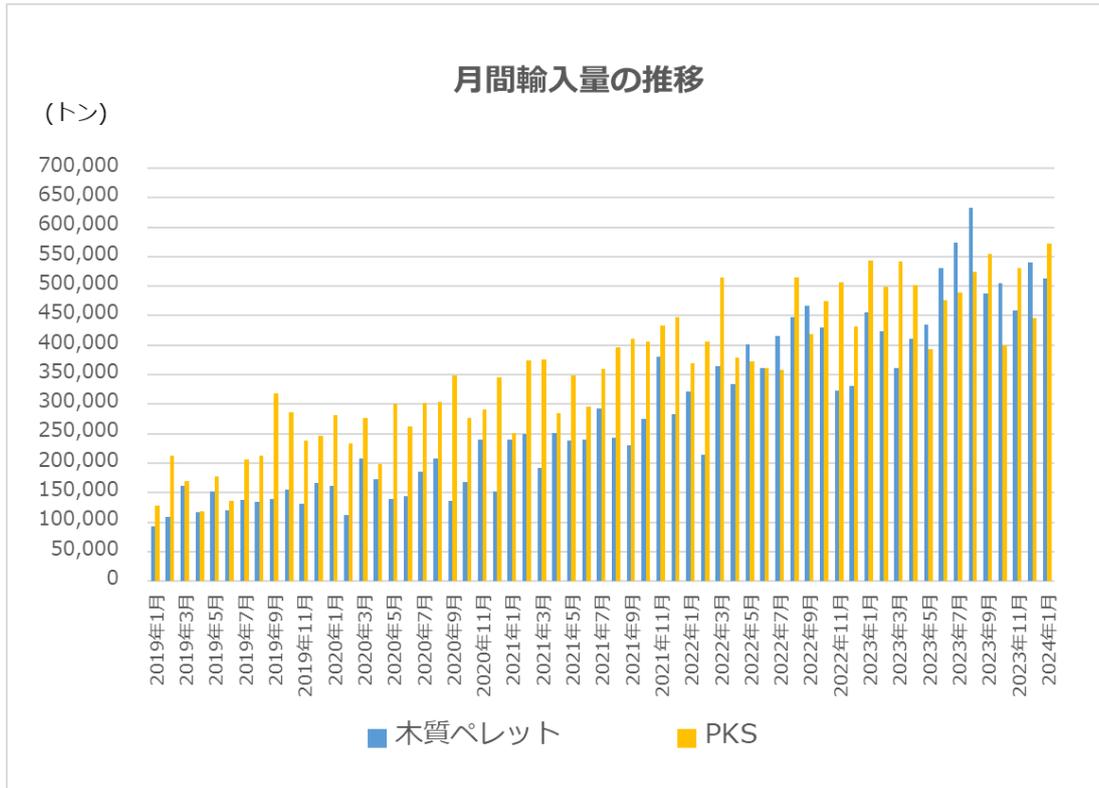
2024年1月 為替レート144.03

国別・地域別	24年1月			23年12月	23年1月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)
インドネシア	152,142	22,546	156.54	157,364	251,710
マレーシア	64,923	23,846	165.56	44,268	73,729
合計	217,065	22,935	159.24	201,632	325,439

140490200 雁皮並びにナット(殻を含むものとし、粉砕してあるかないかを問わない。)及び種

国別・地域別	24年1月			23年12月	23年1月
	数量(mt)	円/mt	ドル/mt	数量(mt)	数量(mt)
インドネシア	258,949	22,995	159.65	169,770	165,489
マレーシア	92,379	22,237	154.39	70,363	52,057
タイ	145	123,708	858.90	155	246
その他	2,908	415,093	2,881.97	3,349	4,380
合計	354,381	23,037	159.94	243,637	222,171

(出所)財務省貿易統計

〇月間輸入量と平均単価推移


(出所)財務省貿易統計

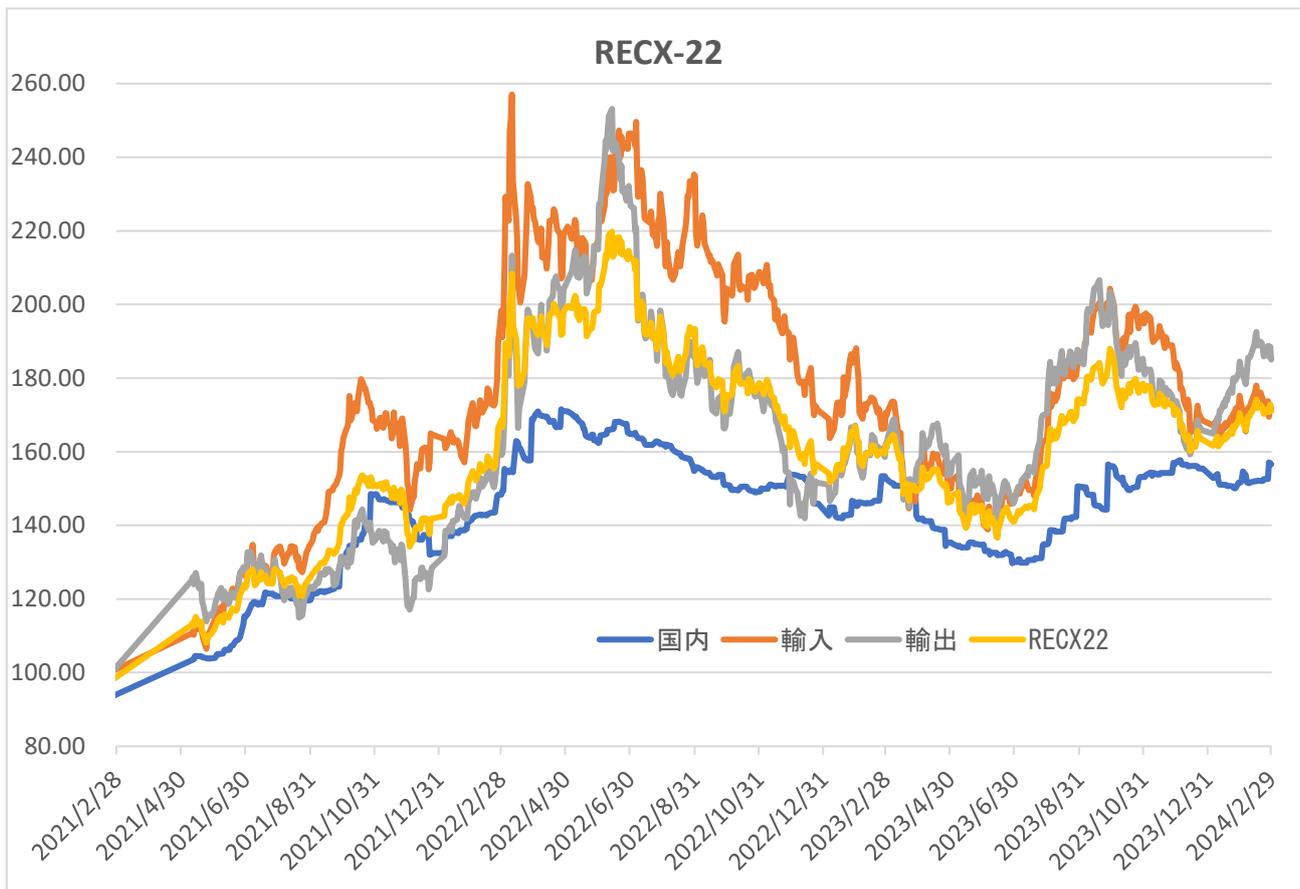
輸入量、および輸入平均単価は下記の HS コードを使用。

木質ペレット：440131000

PKS：230660000、140490200(インドネシア、マレーシア、タイ)

©リムエネルギー総合指数22種（レックス22、2010年平均=100）

29日のレックス22は171.05です。



リムエネルギー総合指数 22 種（レックス 22）は物価や景気動向に大きな影響を与えるエネルギー商品に着目した指数です。

レックス 22 の詳細は下記リンクよりご確認ください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/recx22/index.php?recx=on>

©リム創業 40 周年記念本『エネルギーの歩み』発売のお知らせ

リム情報開発株式会社は 2024 年 2 月、創業 40 周年を記念し、『エネルギーの歩み』を刊行いたします。石油メジャーの誕生から脱炭素化に至るまで、エネルギーの歴史をわかりやすくひも解くとともに、リムならではの市況解説もふまえた充実の一冊です。原油、石油製品、LNG、LPG の貿易統計に加え、年表も資料として掲載しており、業務や勉強に幅広く利用していただけます。この機会にぜひお申し込みください。

定価：33,000 円（税込）※送料が別途かかります。

お申し込みは以下のリンクから（サンプルあり）。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/40book/>

【お問い合わせ先】

リム情報開発株式会社

電話：03-3552-2411

E-mail: info@rim-intelligence.co.jp**◎PRA 原則遵守に関する検証報告書の公開**

リム情報開発は2023年12月20日、証券監督者国際機構(IOSCO)により定められた石油価格報告機関(PRA)に対する原則の遵守に関しまして、合理的保証に基づく検証報告書をウェブで公開しました。当社が発刊する全ての日刊レポートが対象となります。

＜対象レポート＞

バンカーオイル、原油・コンデンセート、アジア石油製品(Products)、LPG、ローリーラック、ジャパン石油製品、石油化学、LNG、電力

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/pramenu4/>

◎電力データ CD・2022年度版の販売開始について

リム情報開発は、電力入札データの2022年度版CDを、7月18日から販売を開始します。初版となる2014年度版のリリース以来、各方面からご好評をいただいております電力入札データの2022年度版となります。最新版では、2022年4月から2023年3月までの1年間に、全国の公共機関が公募した電力調達について、詳細な情報を提供いたします。2022年度版は、収集件数4,165件(昨年度4,583件)で、うち比較可能なデータは956件(同3,230件)です。

※「比較可能データ」：予定供給量、契約電力、契約金額がそろった案件を集計(入札不調、入札条件が不明などの案件は除外)

お申込みこちらへ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contact/form/powerData.html?2020>

◎バイオマスレポート英語版発刊のお知らせ

リム情報開発が発行するバイオマスレポート(週刊)の英語版が好評です。日本や韓国など北東アジアでも発電燃料として需要が高まっている木質ペレットやPKSといったバイオマス燃料に関する情報を、海外のご購読者にもお届けしています。

- 木質ペレットとPKSの東南アジア積み価格とマーケットコメント
- 木質ペレットの北米積み価格とマーケットコメント
- 木質ペレットとPKSの日本着価格とマーケットコメント
- 木質ペレットとPKSのフレートとマーケットコメント
- 日本や韓国の需要家による買付け入札情報

内容のお問い合わせ、購読のお申込みは、リム情報開発バイオマスチームへ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/biomassEnglishJp/>

Tel: 03-3552-2411

Email: info@rim-intelligence.co.jp

◇



※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

- [東京本社] Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415
e-mail: info@rim-intelligence.co.jp
- [シンガポール支局] Tel: (65)-6912-7359
e-mail: lim@rim-intelligence.co.jp
- [北京支社] Tel: (86) 10-6498-0455, Fax: (86) 10-6428-1725
e-mail: ma@rim-intelligence.co.jp huo@rim-intelligence.co.jp
- [上海支社] Tel: (86)-21- 6760 6330/6331, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2024 RIM INTELLIGENCE CO.

お申し込み >

試読 >